

# 企画展「図会で旅する - 暮らしの息づかい -」 展示紹介

中日新聞 令和3年(2021)9月22日(水) 掲載

## 江戸の暮らし 垣間見て



人々の様子が細かく描き込まれた図会＝瑞穂区の越原記念館で

### 瑞穂区で「名所図会」企画展

各地の名所を絵と文章で紹介する江戸後期の地誌「名所図会」に焦点を当てた企画展「図会で旅する」

「暮らしの息づかい」が二  
十一日、瑞穂区汐路町の名  
古屋女子大内にある越原記  
念館で始まった。

名所図会を中心に百点超を展示。「尾張名所図会」からは、人が密集して活気づく熱田魚市場を描いた一枚や、名産のたくあん作りの様子を捉えた作品を飾った。絵に描かれた近辺で撮影した明治、大正期の写真も一緒に並べ、変わらずにぎわう様子が見比べられる。「摂津名所図会」からは、遊興地として栄える大阪・道頓堀の様子や孔雀を取り上げ、人々の暮らしが感じ取れる。旅に役立つ

持ち物や知識を記した旅行用心集、関所の通過に必要な往来手形も飾った。学芸員の鈴木孝子さんは「江戸時代には移動の自由が厳しく制限され、図会から旅へのあこがれをかき立てられていた。今もコロナ禍で旅の自粛が求められる中、江戸時代の人の生き生きとした暮らしを絵から垣間見てほしい」と語る。来年二月十五日まで、入場無料。午前10時～午後5時、土日祝日休み。十月九日は開館する。(山本拓海)